

2020年4月28日

エリアリンク株式会社
証券コード 8914 東証マザーズ



2020年12月期 第1四半期 決算サマリー

■2020年12月期 第1四半期業績(3ヵ月)

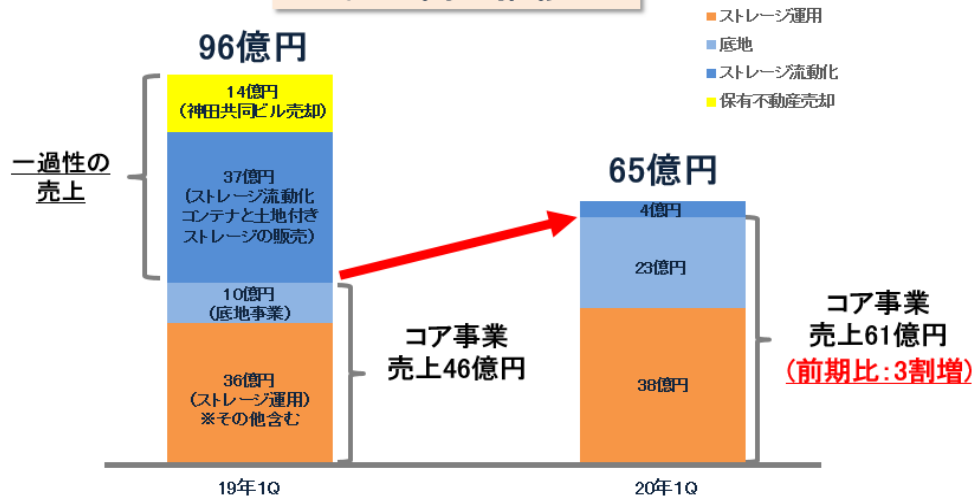
予算大幅上振れも、前年同期比で減収減益。上振は売上で15億円、営業利益で5億円

(単位：百万円)	2020年1Q 1-3月	売上比(%)	2019年1Q 1-3月	売上比(%)	前年比
売上高	6,523	(-)	9,634	(-)	△ 32.3%
売上原価	4,731	(72.5)	7,395	(76.8)	△ 36.0%
売上総利益	1,791	(27.5)	2,238	(23.2)	△ 19.9%
販売費及び一般管理費	996	(15.3)	959	(10.0)	+3.9%
営業利益	795	(12.2)	1,278	(13.3)	△ 37.8%
経常利益	783	(12.0)	1,177	(12.2)	△ 33.5%
四半期純利益	535	(8.2)	801	(8.3)	△ 33.2%

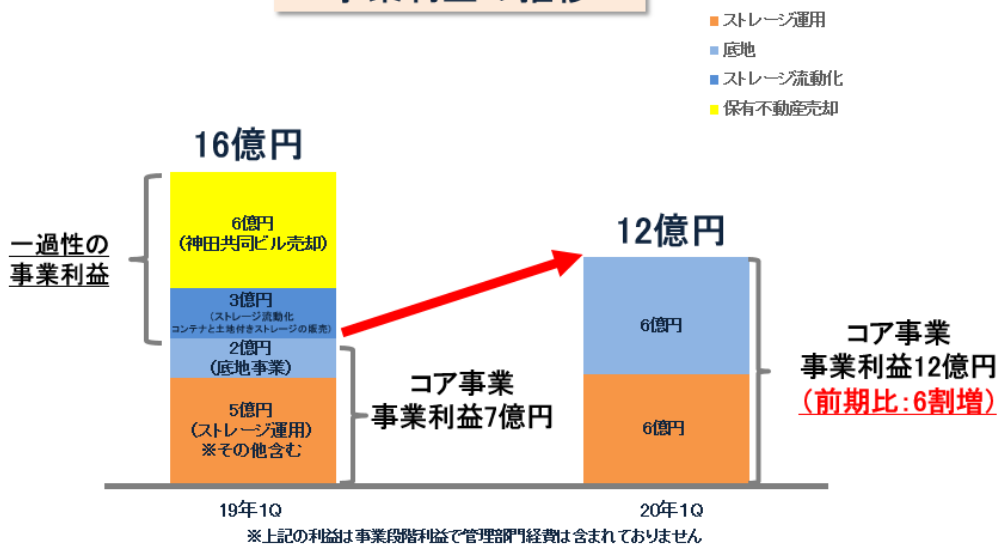
売上高 65 億 23 百万円（前年同期比 32.3%減）、営業利益 7 億 95 百万円（同 37.8%減）、経常利益 7 億 83 百万円（同 33.5%減）、四半期純利益 5 億 35 百万円（同 33.2%減）と減収減益の結果。ただし、前年同期（2019 年第 1 四半期）の業績には、一過性の利益（神田共同ビル売却 売上 14 億円、粗利益 6 億円）が含まれていたこと、及び、会社の方針転換によりストレージの自社保有を進めていることから、従来ストレージ流動化に含まれていた売上・利益が減ったことが減収減益の要因。ストレージ運用、底地事業といったコア事業ベースでは大幅増収増益を達成。

また、ストレージ事業は予算を達成していること、底地事業では予算を大幅に達成していることから全社業績は 2 月 14 日に発表した業績予想を売上高で 15 億円、営業利益で 5 億円それぞれ上振れる結果。

売上高の推移

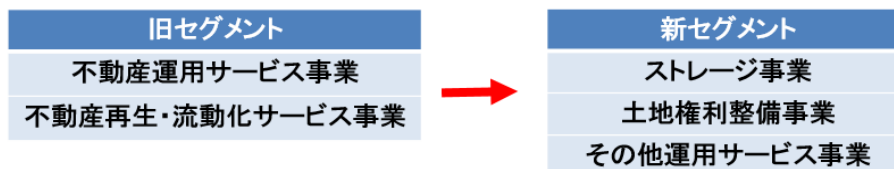


事業利益の推移



■報告セグメントの変更

2020年12月期より報告セグメントを変更



新セグメント	事業内容
ストレージ事業	ストレージ運用、流動化
土地権利整備事業	底地の売買及び賃料収入 不動産の売買
その他運用サービス事業	保有不動産の賃貸、保守、管理 レンタルオフィス、貸会議室等

■2020年12月期 第1四半期 セグメント別概況

ストレージ事業：予算達成、流動化減により減収減益

・ストレージ運用 予算達成・増収増益、値引率改善を継続

ストレージ運用は売上高 33 億 83 百万円（前年同期比 9.2 増収）、事業利益は 4 億 45 百万円（同 7.6%増益）と増収増益の結果。出店総室数 97,882 室まで増加（19 年 12 月末+1,413 室 19 年 3 月末+5,554 室）。ストレージ稼働率は 78.03%、1.98%ppt 増（2019 年 3 月末比）。稼働率は順調に推移。既存稼働率は 1.53%ppt 減（2019 年 3 月末比）（19 年 3 月 82.05% 20 年 3 月 80.52%）。稼働率の低い土地付きストレージが既存物件化したため。

・ストレージ流動化 大幅減収減益、投資家販売から自社保有へ移行

売上高は 4 億 27 百万円と前年同期比で大幅減収の結果。減収減益の主な要因は、土地付きストレージの出店が大きく減少していることと、コンテナストレージについては従来の投資家販売から自社保有へ移行したためで会社計画通り。

土地権利整備事業：昨年の資産売却の影響で減収減益、実態ベースで増収増益の結果

売上高は 22 億 55 百万円と前年同期比で減収ながら、前年同期には神田共同ビル売却を含むため（売上 14 億円、営業利益約 6 億円）、底地事業は実態としては大幅増収増益。特に、第 2 四半期に決済を予定していた大規模物件が 3 月に決済できたことから第 1 四半期としては大幅上振れ。今後は、景気や市況を鑑みて一旦仕入れをストップ売却に専念。

		2020年(1-3月)		2019年(1-3月)		前年比	
		実績	利益率	実績	利益率	増減率	
ストレージ事業	運用	売上高	3,383	(-)	3,100	(-)	9.2%
		売上総利益	720	(21.3)	665	(21.5)	8.2%
		営業利益	445	(13.2)	413	(13.3)	7.6%
	流動化	売上高	427	(-)	3,688	(-)	△ 88.4%
		売上総利益	49	(11.7)	507	(13.8)	△ 90.1%
		営業利益	△ 39	(△ 9.2)	260	(7.1)	△ 115.2%
ストレージ事業	売上高	3,811	(-)	6,788	(-)	△ 43.9%	
	売上総利益	770	(20.2)	1,172	(17.3)	△ 34.3%	
	営業利益	405	(10.6)	674	(9.9)	△ 39.8%	
土地権利整備事業	売上高	2,255	(-)	2,390	(-)	△ 5.6%	
	売上総利益	843	(37.4)	895	(37.5)	△ 5.8%	
	営業利益	597	(26.5)	795	(33.3)	△ 25.0%	
その他運用サービス事業	売上高	456	(-)	454	(-)	0.4%	
	売上総利益	177	(39.0)	170	(37.4)	4.6%	
	営業利益	135	(29.7)	133	(29.3)	2.0%	

管理部門経費	売上高	—	(—)	—	(—)	—
	売上総利益	—	(—)	—	(—)	—
	営業利益	△ 343	(—)	△ 324	(—)	6.0%
全事業合計	売上高	6,523	(—)	9,634	(—)	△ 32.3%
	売上総利益	1,791	(27.5)	2,238	(23.2)	△ 19.9%
	営業利益	795	(12.2)	1,278	(13.3)	△ 37.8%

■業績予想

変更なし

	2019年12月度		2020年12月度		前年同期比	
	実績	(%)	予想	(%)	増減	増減率
(単位：百万円)						
売上高	29,333	(—)	24,700	(—)	△ 4,633	△ 15.8%
ストレージ事業	22,087	—	14,571	—	△ 7,616	△ 34.0%
土地権利整備事業	5,402	—	8,436	—	3,033	56.2%
その他運用サービス事業	1,842	—	1,691	—	△ 151	△ 8.2%
営業利益	3,030	(10.3)	2,300	(9.3)	△ 730	△ 24.1%
ストレージ事業	2,308	—	1,361	—	△ 946	△ 41.0%
土地権利整備事業	1,344	—	1,711	—	366	27.3%
その他運用サービス事業	546	—	496	—	△ 50	△ 9.2%
管理部門経費	△ 1,169	—	△ 1,269	—	△ 100	8.6%
経常利益	3,000	(10.2)	2,200	(8.9)	△ 800	△ 26.7%
当期純利益	△ 1,753	(—)	1,300	(5.3)	3,053	—
1株当たり当期純利益(円)	△ 138.81	—	102.93	—	—	—

■配当予想

変更なし

	2019年12月度	2020年12月度(予想)
1株当たり配当金	40円	31円
配当性向	—	30.1%

その他のIR情報はこちら <https://www.arealink.co.jp/ir/> よりご覧いただけます。